

中国人民大学と一橋大学が共同シンポジウムを開催

(更新時間:2009 年 11 月 02 日 10:15)



シンポジウムの様子（写真上）

人民網 11 月 2 日北京電(記者趙松) 中国人民大学と一橋大学は 10 月 31 日、中国人民大学逸夫ホールで、『2009 中国人民大学・一橋大学共同シンポジウム——世界不況と日中の役割』(主催:中国人民大学、一橋大学/特別協賛:みずほフィナンシャルグループ/協賛:中国人民大学経済学院、中国人民大学深セン研究院、北京長安投資集団有限公司)を開催した。中国人民大学常務副学長の袁衛教授、一橋大学副学長の山内進教授、みずほコーポレート銀行執行役員・中国営業推進部長の中澤幸太郎氏が祝辞を述べた。国家開発銀行顧問で全国政治協商会議委員の劉克崙氏、国家外貨管理局副局長の王小奕氏など指導者も出席した。日中の研究者約 10 名が学術講演を行った。中国人民大学深セン研究院院長の陳建教授と一橋大学大学院商学研究科の三隅隆司教授が議事進行役を務めた。

午前の基調講演では、中日双方が世界不況と中日両国への影響について、また、中日はいかに協力を強化するかをテーマに討論した。具体的な講演者とテーマは次の通り。

- 一橋大学商学研究科長 清水啓典教授「世界金融危機後の金融規制と日中の役割」
- 元中国証監会主席 劉鴻儒氏「世界金融危機と中国金融政策」
- みずほ総合研究所市場調査部長 長谷川克之氏「世界的金融危機と日中の金融・経済」
- 中国石油天然ガス集团公司資本運営部主任 于毅波氏「現在の中国経済が直面する課題と対策」
- コマツ顧問 安崎暁氏「世界不況後のグローバル企業発展の方向」

- 人民大学经济学院 黄卫平教授「グローバル時代のサブプライム危機と中日の対応策」
国際協力銀行総裁兼 CEO で、元一橋大学教授 渡辺博史氏「アジア金融協力」

午後はパネルディスカッションを実施した。中日双方が「世界不況後の世界経済の発展動向」や「中日両国は如何にして世界経済の発展に協力していくか」をテーマに熱弁を交わし、会場の聴衆からの質問にも答えた。素晴らしい講演内容に客席から大きな拍手が沸いた。



(责任编辑:张璐璐)